



風洞

特別
Λ5
6673
64
早稲田大学図書館



あふら丁酉のや

益田



節

あやしとて今下あうと書判ふ
あふらと書判ふあふらと書判ふ
あふらと書判ふあふらと書判ふ
あふらと書判ふあふらと書判ふ
あふらと書判ふあふらと書判ふ
あふらと書判ふあふらと書判ふ

婿ぬ

婿ぬ

三條井

さうあ

人日ニツ物

ゆふあふらと書判ふあふらと書判ふ

いふ

あふらと書判ふあふらと書判ふ

あふ

あふらと書判ふあふらと書判ふ

あふ

あふ

あふらと書判ふあふらと書判ふ

あふらと書判ふあふらと書判ふ

あふ

あふ

あふらと書判ふあふらと書判ふ

あふ

あふらと書判ふあふらと書判ふ

あふ

あふらと書判ふあふらと書判ふ

あふ

あふらと書判ふあふらと書判ふ

あふ

先開く層や正名神ささり 汀危

書柳や雪うへ時の柔木房へ 素人

福葉や海山まへり 夏まらけ 以一

神引や魚目合世家内うま 仙柳 少幸

一先とかしこちり 赤紫雲衣初 兼児

と川そや信向人もう死さき 柳井

神礼や常きともあれ 門送り 其北

達葉名流志川之 昆布端 女 奈淵

夏木正と氣もさきさき 明の雲 雨竹

山うねるも 娘の 神也 明鳥 柳青

砂まらさや ぬる川さきさき 元方柳 吐玉

傍種や新加新の 山引さ 坊友

都く 都く 都く 珠一と川 河衛

美草や 美草や 美草や 美草や 先紫

破戸らや 捨きあさきも 靉以 善羽

とまらや 都文とんよ 岩腰との 菜流

市のき川門 静あり 雲かきり 羅公

大物くや 意うね 美山 美山 夕辰

美草や 美草や 内うね 先れたし 志斗

と川とさきと 雲さきをさきり 信引繩 凡和

美草柳 美草と河と 大氣ふ 美草柳 柳歌

と川と美や 月あきとさきと 河さきと 茶碗

何くも先世我うそ、即磨 松雨

此世其や家ありて葉の世やと 長生

笑あつて好き嫌ふく居居の 浦秋

羨ふや笑ふや居居の 文出

即世もやあつての心は居居の 箕切

川雲や昔来りて風の音も 喜蝶

正月や又も来りて人の心 柳歩

万事や古の顔ありて月も 之呼

わが心もあつて居居の
とてこゝろ不殺すて居居

ありくくも居居の 何人

四方不世帯く居居の
とてこゝろ不殺すて居居

えとや清きにも居居 去破寺 一光

大股や好ましく居居 素因

近しくも居居の心は居居の 梅舟

病も居居の心は居居の 鷲大

明くも居居の心は居居の 鹿舟

高き我平身を居居の
とてこゝろ不殺すて居居

誠ふ 守る居居の心は居居の 危日

居居の心は居居の心は居居の 調和会 龜六

申月 年尾

作の巻尾と致んと川をさうた
文姫家よきはくはく納まり式と
信を折う也

川中へや舟もさへん 信をさる

作をさる 舟の市おぼれ家 祭叔

孝経をん 理も現く 各年とて 作経

終をさる 舟の舟福子 梨香

さるくや出くさくく 正月の月 掩耳

さるく 舟の舟福子 喜螺

舟の舟福子と馬志目を世に 以一

舟の舟福子と舟の舟福子 汀を

舟の舟福子と舟の舟福子 舟人

舟の舟福子と舟の舟福子 龍火

舟の舟福子と舟の舟福子 何人

舟の舟福子と舟の舟福子 浦秋

舟の舟福子と舟の舟福子 支幽

舟の舟福子と舟の舟福子

舟の舟福子と舟の舟福子
舟の舟福子と舟の舟福子
舟の舟福子と舟の舟福子
舟の舟福子と舟の舟福子
舟の舟福子と舟の舟福子

舟の舟福子

舟の舟福子と舟の舟福子

舟の舟福子

